

第7回 館山市総合計画審議会 会議記録

- 1 日時 令和2年11月18日(水) 13:15~14:45
 2 場所 コミュニティセンター 2階 集団指導室
 3 出席者

| 委員構成 | 氏名 | 役職 | 出欠 |
|-------|--------|----------------------|----|
| 市議会議員 | 石井 敏宏 | 市議会議員 | 出席 |
| | 鈴木 ひとみ | 市議会議員 | 出席 |
| | 室 厚 美 | 市議会議員 | 出席 |
| | 龍崎 滋 | 市議会議員 | 出席 |
| 産業関係者 | 石渡 和男 | 館山商工会議所 推薦 | 出席 |
| | 鈴木 久雄 | 館山市漁業協同組合連合協議会 推薦 | 欠席 |
| | 高橋 實 | 安房農業協同組合 推薦 | 欠席 |
| | 竹内 信一 | 公益社団法人 安房医師会 推薦 | 欠席 |
| | 館石 正文 | 一般社団法人 館山市観光協会 推薦 | 出席 |
| | 平野 直 | 館山市地域公共交通会議 推薦 | 欠席 |
| | 矢上 真吾 | 一般社団法人 館山青年会議所 推薦 | 出席 |
| | 吉田 南子 | 館山市地域包括支援センターなのはな 推薦 | 出席 |
| 行政関係者 | 今成 和幸 | 千葉県安房地域振興事務所 推薦 | 欠席 |
| 教育関係者 | 遠藤 敏伸 | 国立館山海上技術学校 推薦 | 欠席 |
| | 守安 委久予 | 館山市教育委員会 推薦 | 出席 |
| 金融関係者 | 小高 栄二 | 館山市金融団(二十日会) 推薦 | 出席 |
| 労働関係者 | 石川 博将 | 館山公共職業安定所 推薦 | 出席 |
| | 羽山 敏雄 | 千葉県社会保険労務士会木更津支部 推薦 | 出席 |
| 報道関係者 | 片方 義明 | 館山記者クラブ 推薦 | 出席 |
| 知識経験者 | 秋山 一夫 | 社会福祉法人 館山市社会福祉協議会 推薦 | 欠席 |
| | 石井 久治 | 館山市町内会連合協議会 推薦 | 出席 |
| | 石渡 秀嗣 | 館山市子ども・子育て会議 推薦 | 出席 |
| | 廣中 元衛 | 館山市スポーツ協会 推薦 | 出席 |
| | 田中 真由 | 公募委員 | 欠席 |
| | 溝口 かおり | 公募委員 | 出席 |

4 議題

- (1) 今後の策定スケジュールについて【説明】
- (2) 『後期基本計画』原案について【協議】
- (3) 市内高等学校等への意見募集 結果概要について【説明】
- (4) その他

5 会議の経過

1. 開会
2. 市長あいさつ

金丸市長：皆さまこんにちは。ご多用の中、第7回館山市総合計画審議会にご参加を賜り、ありがとうございます。新型コロナウイルスの影響で、これまで3回の審議会が書面開催となった。『第1期館山市まち・ひと・しごと創生総合戦略』の総括、『第2期館山市まち・ひと・しごと創生総合戦略』の策定、『前期基本計画』の政策評価、『後期基本計画』の素案検討に関し、毎回膨大な資料に目を通していただき、また多くのご意見いただき、心から感謝申し上げます。『後期基本計画』に関しても多くのご意見を賜り、ありがとうございます。本日は『後期基本計画』の原案について審議し、確定したいと考えている。皆様から忌憚のないご意見を頂戴できればと思う。12月中旬より実施するパブリックコメントで寄せられた意見を参考に内容を整え、来年2月末の審議会最終確認と答申を行いたいと考えている。別件であるが、館山市と南房総市を圏域とする『定住自立圏構想』の推進にあたり、今年度内に「共生ビジョン懇談会」を立ち上げる予定である。今後、皆様の中から委員をお願いする場合は、ご協力をお願いしたい。結びに、市政へのご理解・ご協力をお願いし、ご挨拶としたい。

3. 委員の紹介

4. 議事

- (1) 今後の策定スケジュールについて【説明】

石渡会長：これからご審議いただく『後期基本計画』の原案について、忌憚のないご意見をいただきたい。『後期基本計画』は、今後5年間の館山市の中核をなす大事な計画である。新型コロナウイルスに配慮しつつ、なるべく短時間でかつ多くの皆様にご発言いただきたく、事務局による説明、委員の皆様のご発言の際は、できるだけ簡素に要領良くしていただき、円滑な議事の進行にご協力をお願いしたい。

※事務局より説明

- (2) 『後期基本計画』原案について【協議】

※事務局より説明

室委員：重点プランに関し、p115の「観光の魅力を高める資源の活用」は、観光について重要な部分が多いため、どれかを重点にしていただけませんか。また、p118の「市民参画」で、市民と協働に関し、情報化において重点にしている施策は多くあるが、インターネット上ではなく、地域コミュニティなどリアルの場で協働することに関し、重点分野があるとよいのではないかと。p114の「歴史と文化の保存」についても、もう少し注目し、重点施策があるとよいのではないかと。重点プランを選んだ基準について教えてください。

事務局：重点プランについて、各担当課が最優先と考えた事業や、昨年度末に行った市民まちづくりアンケートで満足度が低いと重要度が高いと位置付けられた事業など、例えば、公共交通や雇用関係については優先的に選定している。全体のバランスを見て事務局で再検討したい。

鈴木ひとみ委員：p117の「地球温暖化対策事業」が重点プランに入っていないが、昨今の社会や災害の状況を見ると、重点に入れて館山市として環境を大事にしていくことをもっと売りにするべきではないかと。

加藤建設環境部長：環境に関しては地球温暖化だけではなく、環境全体がどれも重要であるため、一本に絞られるところではない。あえてこの5カ年の中でいうと、「清掃センターの長寿命化」を進めていこうと挙げたところ。決して環境が重点施策ではないということではない。

矢上委員：p106の「情報発信力の強化」の成果指標の設定根拠について教えてください。
「ホームページの閲覧回数」と「フェイスブックの“いいね”件数」は、現状値がすでに目標値を超えているが、これ以上力を入れるべきではないと判断しているのか。

事務局：昨年の台風と新型コロナウイルスの影響で、ホームページやフェイスブックの閲覧回数が異常に多くなった。原則は令和元年度末の実績値を現状値とするが、このような特殊な場合には、平成30年度末の実績値を採用する。よって、ホームページの閲覧回数は246万回、フェイスブックの“いいね”件数は2200件を現状値とするように修正したい。また、表の下に上述の注釈を入れる。

石渡秀嗣委員：平成30年度末の現状値は、必ずしも異常値ではないと思う。それによって目標値も変わると思う。

川上総合政策部長：そのような考え方もあるが、平成30年度以前の傾向がだいぶ低かった。ご意見を踏まえ検討したい。

事務局：石渡委員からのご指摘については、現状値を変更するかを含め、再度内部で検討したい。

室委員：「ホームページの閲覧件数」は減るが、「フェイスブックの“いいね”件数」は一度“いいね”を付けた人は外さないと思うので減らないと思う。同じように、p96の指標では、「犯罪発生件数」の現状値より目標値が多くなっている。

事務局：本日お配りした『後期基本計画』原案に対する事前意見への回答のp2をご覧ください。「犯罪発生件数」の目標値は270件から230件に修正する。

矢上委員：p82の指標「不法投棄報告件数」について、不法投棄1件の基準は何か。現状値の20件は少ないように感じる。例えば北条海岸を見ると、一日で何件もバーベキューセットなどのごみを見る。

加藤建設環境部長：館山市では環境等対策監視監（警察OBや消防OB）2名が市内を巡回しており、そこで発見した件数を「不法投棄報告件数」としてカウントする。また、市民からの不法投棄の連絡があればカウントする。

矢上委員：不法投棄の大きさの基準はあるのか。

加藤建設環境部長：特に大きさ等の基準はない。故意に捨てたごみを対象としている。

石井敏宏委員：パブリックコメントについて、「p〇〇の●●について意見を書いてください」というフォーマットだと、記載されていない意見は出にくい。自由記述の欄を設けて、新たな事業を提案できるようにしてはどうか。

事務局：市民の皆様から意見が出やすいよう、ご意見のように工夫した様式としたい。

矢上委員：指標の目標値をどのように設定したか、根拠付けの資料は見られるか。後から調査するときに役立つと思う。

事務局：『前期基本計画』の進捗状況調査を毎年行い、現状値の推移を報告している。『後期基本計画』では、前期と同じ指標を設定する場合と、新たな指標を設定する場合がある。前者は、過去の推移を勘案し設定したため、市ホームページで公開している『前期基本計画』の政策評価や進捗状況調査の資料を参考にしていきたい。

羽山委員：計画自体についての意見はないが、コーラル会議の委員の立場から一つお願いしたい。『基本計画』をもとに各担当課が施策を進める際に、「働く人たちの育児休業の推進」を意識していただきたい。「子育て環境の充実」や「安心して妊娠・出産できる環境づくり」の中に、勤めている人が安心して出産できる職場が確保されることも大きな要素の一つである。市として民間企業に働きかけるのはなかなか難しく、『基本計画』の中に入れるのは難しいと思うが、安心して出産できる環境づくりや、

新たな雇用の創出において、各課が施策を推進する際には、民間企業に育児休業取得を推進するよう働きかけていただきたい。

事務局：p104 の「女性活躍推進事業」の中で、女性の積極的活用と男性の育児休暇取得を促していく。他の事業や個別計画でもご指摘の視点を持って進めていく。

また、『男女共同参画推進プラン』においても、あらゆる分野における男女共同参画の推進として、働く女性の妊娠・出産・子育てに関する制度の理解促進や、雇用の場での意識改革の推進を目指し、企画課と雇用商工課が連携して、市内の民間企業に意識改革を進めていくよう促していく。

龍崎委員：産業経済の分野において、重点施策が最も多い。市内の事業者として、長期に事業展開していくためには、この分野に重点施策が網羅されているのは当然なことだと思う。これからの市の発展が目に見えてくるのもこの分野である。具体的な施策について、発展的に取り組んでいただきたい。

矢上委員：SDGs の表記の仕方について、各施策に記載されているゴールはすべてに当てはまると思うが、どのゴールに特化しているかがぼやけてしまうので、特に重点的なゴールを1つないし2つ、多くても3つ重視するとよいのでは。計画を立てる側にとってもどのゴールを重視していけばよりかわかると思う。当てはまるゴールが多すぎると、ぼやけてしまう。

事務局：市内でも同じような議論があった。関連するものは幅広く記載することとしたが、今後の展開によっては変わってくる可能性もある。どのような表記方法がよいか、再度検討したいと思うが、ご意見として承らせていただく。

鈴木ひとみ委員：以前は関連ゴールが少なかったところ、関連付けるゴールが多いほど、観点が多くなり深まるのではという意見を申し上げた。例えば、子育て環境に関し、表記していないゴールもあるが、関連はするものもあると思う。教育や貧困に限るより、いろいろな観点から見るとしたほうがよいと思う。

事務局：ただいまのご意見や今後のパブリックコメントでのご意見も含め検討するが、現時点ではこのまま進めさせていただきたい。

石井敏宏委員：SDGs は理念的なものであるため、すべての事業に当てはまるというのはもったもたと思う。新たに SDGs があるから取り組む事業としては、p61 の「持続可能で倫理的な消費の普及・啓発」がある。モラルのない商品ではなく、ちゃんとした給料を払い、人の身体にいいもの、高品質な製品を使っていく運動であり、いかにも SDGs に特化していると思う。他に SDGs だからこそその新規事業はあるか。

事務局：ただいまのご意見はエシカル消費に関するものだが、これ以外には新規の事業は特に

ない。これまでの事業であっても、SDGsの目標達成に貢献していくものと考えている。

事務局：一番初めの室委員の重点プランに関する意見について、補足させていただきたい。重点プランに該当しないものには力を入れない、というわけではない。重点プランは、限られた予算や人員の中で、重点的に進める事業として配慮して進めていくという意味である。

鈴木副市長：p112の事業リストで、「●」がついているのは、5カ年の事業の執行を担保するものではなく、5カ年進めていけば館山市の将来都市像を実現できるのではないかとこのところを皆さんにお諮りして位置付けているものである。例えば、昨年の台風15号のような事態には、財源や人員が限られてしまい、できない事業も出てきてしまう。その際に重点的に推進する市の方向性を示すものである。

石渡会長：この事務局案を『後期基本計画』原案として確定させ、パブリックコメントを実施したいが、よろしいか。

全委員：異議なし。

石渡会長：SDGsは奥が深い。機会があるときにまた勉強したい。修正等は事務局にお願いする。パブリックコメント実施後、次回の審議会までに冊子をイメージした形に整えていく必要があるため、全体のデザインやレイアウト、細かい文言の修正、資料編等は修正追加を事務局に一任したいが、よろしいか。

全委員：異議なし。

(3) 市内高等学校等への意見募集 結果概要について【説明】

※事務局より説明。

鈴木ひとみ委員：高校生がちゃんと考えていると感じた。特に、雇用に関し、高校生は5年後には働く人になるため、高校生の考えを今後大切にしていきたい。

石渡会長：館山商工会議所でも、昨年7月17日に、館山総合高校で出前講座を行った。コロナの影響で延期になっていたが、第2回の出前講座は今年の10月27日に、安房西高校で行った。実施後のアンケートでは、約80%が「とてもよかった」「よかった」と回答した。高校でこのような出前講座は行ったことがないという。学生は一生懸命聞いていた。第3回は安房高校か安房拓心高校で行おうと考えている。館山市の人口の動向やハローワーク、館山に帰ってきたときには働くための受け皿があることなどを話した。

石井敏宏委員：実際できるかどうかは難しいかもしれないが、意見を深掘りすると良い。例えば、防災・安全に関し、「街灯を増やして明るくする」という意見がある。街灯の管理は自治会が行っているから市は何もできないのではなく、自治体への補助率を上げるなどの策がある。財政面から、難しいという結論になるかもしれないが、実現に向けて具体的に深掘りして、意見を反映するとよいのではないか。

鈴木副市長：聞いて聞きっぱなしが一番よくない。先日、館山総合高校から「館山駅に高校生が入りづらい」など具体的な提案をいただいた。そのような提案について見える形にすれば、ふるさと意識の醸成につながる。多くの意見をいただき、庁内でも検討している。

石井敏宏委員：「予算がない」で終わってしまう場合が多い。館山市の財政は厳しいが、できない理由を探すのではなく、民間でできる方法を探すなど、できる理由探しをしていただきたい。

矢上委員：環境共生について、ごみに関する意見が多い。ゴミ捨て場のネットをくぐってカラスがごみを持って行ってしまう。まちなかでタバコを吸わないようにする施策ができればごみが減り、意識付けとしては良いと思う。行政が強い力をもっていたら。最初は反発があると思うが、続けるときれいなまちができる。すると、ごみが目立ち、ごみを捨ててはいけないというメッセージとなる。海からの景色は最高という意見がある。海はきれいだが、居続けると、ごみが気になってくる。市からメッセージ（防災行政無線）を繰り返すことで、意識すると思う。例えば、歩きたばこを禁止する条例を作ると、一つのきっかけになると思う。

鈴木副市長：市の条例で、まちをきれいにする条例がある。きっかけは、たばこのポイ捨てが目立ったからである。まちが汚ければどんどん汚くなる。条例を作るだけでなく、実行するために市民主体のまちづくりを進めていく。昨年の台風で、6000棟以上の家が壊れた。空き家が増えてしまうのが問題であるため、市の条例改正も検討したい。歩きスマホなどの課題も山積しているため、見直ししたい。

(4) その他

※特になし

5 その他

※事務局より情報連絡事項説明。

矢上委員：青年会議所は、明るい豊かな社会を理念とした世界組織である。日本青年会議所は、2019年に外務省とパートナーシップを結び、SDGsを推進している。全国各地の青年会議所が推進していて、2019年には日本で最もSDGsを推進する事業をした団体として賞をいただいた。館山青年会議所は2019年に勉強会を開いた。2020年は、SDGsの

ステッカーを車や会社に貼っていただく事業を行った。今回は、子どもたちに知っていただくため、「未来につなげる SDGs ポスターコンテスト」を行った。学校に冊子を配布し、好きなテーマに関するポスターを描いてもらった。館山青年会議所の活動地域である館山市・南房総市・鋸南町の小学生を対象とした。房日新聞社にもご協力いただいた。先着 200 名の募集で、約 30 名しか集まらなかったため、周知活動について反省している。大賞は、ゴール 16「平和と公正をすべての人に」について、平和の象徴である鳳凰と天秤が描かれたポスターであった。生徒が自分なりに解釈して描いていただいた。房日新聞社の賞は、ゴール 5「ジェンダー平等を実現しよう」について、LGBT をテーマにしたポスターであった。取り上げるのは勇気が必要だったと思う。今後も市とも協力しながら、SDGs を推進していきたい。

事務局：次回の審議会は、2021 年 2 月 24 日（水）13:30 から、コミュニティセンター 1 階第 1 集会室で開催予定である。『後期基本計画』の最終確認と答申を行う。

以 上